

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通/A,B,Cユニット)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪市都島区中野町1-12-11		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして基本的な考え方ではあるが、入居者様個々に合った生活援助、個々の意思を尊重した関わり方。  
入居者様と共に支え合いながら暮らしていくという「ホーム感」。  
新規の方や御家族が一目で入居したいと思うような清潔感と落ち着いた雰囲気。  
隣に桜ノ宮公園があること、天神祭の花火が施設の真上に上がる事、等。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

景観に恵まれた市街地にあるビルの2・3階に3ユニットを開設して14年になる。諸般の事情を考慮して新しい理念「共に支え合い、価値ある人生を」を創出し、コロナ禍での様々な規制の中での管理者交代や職員異動の経験を機会と捉え、認知症ケアの本質を目指して努力している。  
近時の退去者続出(入院)と人材配置の点から、本年初頭に利用者・職員の配置換えで3ユニットを2ユニットに再編している。管理者(令4年11月就任)と同期の永続10年の主任2名と経験豊富なケアマネジャーの4名を中心に、新旧職員の経験値や介護概念の差を補完しあうためのチームワークでサービスの質向上を図り、3ユニットの桜ノ宮なごみの再開と、コロナ禍終息後の地域との交流復活と外出支援強化に取り組みたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義 地域密着型サービスの役割という事を考えながら、新たに理念を作ります。 管理者・職員、共に話し合い共有し実践につなげていけるよう努力します。	開設して14年、職員異動が重なることを踏まえて、新たに理念を創出したいとして「共に支え合い、価値ある人生を」掲げている。利用者・家族・職員・地域の支え合いで、利用者の尊厳を第一にしたケアを目標に日々努力している。理念の新・旧職員への浸透と実践、家族への周知に注力したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍にて運営推進会議等もFAXや電話になっています。 少しずつ利用者様や当事業所がその役割を果たせるよう、また地域とつながりながら暮らし続けていけるよう努めます。	コロナ禍以前には、区民祭りに参加し、小学生の獅子舞訪問、事業所の夏祭りに地域有志の盆踊りを招聘などがあったが、中止状態が続いている。10軒ほどの回覧板や少ない機会だが町会長との会話で地域情報を入手している。散歩時に隣接の神社宮司との挨拶を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、区役所や他施設と、ケアの仕方や助言、認知症ケアに関わる拠点としての役割を意識しながら連絡を取り合っています。 相互的に高め合えるよう努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	こちらからの報告や情報交換だけでなく担当者からの率直な意見も一度こちらで受け止め、会議で話し合うようにしています。 役立ちそうなものは積極的に取り入れサービスの向上に生かせるよう努めています。 独自の介護感みたいなものにとらわれないよう、常に柔軟な考えと対応に重きをおいています。	コロナ禍により書面開催としている。イベント・入退所状況・職員状況・ヒヤリハット及事故・実地指導内容・施設の取り組みなどを内容とした報告を、構成メンバーの町会長と地域包括センターに届け、意見等を入手し次回に添付している。家族参加、報告書の家族への配布は無い。	理念にある「共に支え合う」の意義から、運営状況の地域への発信と意見聴取は重要であり、民生委員・隣接老健・同ビルのデイサービス事業所・関係薬剤師・友好関係のGHなどへの働きかけや、報告書送付での家族への呼びかけなどによる、推進会議の活性化を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前より、すぐに担当者の方に電話するようになりました。無知という事もあります、快く受け答えして下さいませ。 そういう面からも良い関係構築は有り得ると考えます。	公的扶助受給者の在籍での関係部署とケースワーカーとの連携、事業所運営上の諸課題について、管理者就任(昨年11月)による相談や指導を受け、よりよい協力関係が作られ継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針、身体拘束委員会、研修を通して全職員に指定基準上の身体拘束は周知徹底している。 現場の職員の価値基準、考え方はそれぞれ異なり、疑いがあるような場合に都度話し合い、対応している。 個人的には基準が曖昧な時は当該利用者様がどうしたいのだろうか？と考える事が重要であると思ってます。ただし、生命の危機等は除く。	身体拘束適正化に関する指針を有し、委員会を管理者・フロアー主任・ケアマネジャー・看護師で開催し、記録をフロアー会議で確認している。既定の研修も実施して拘束への理解を深めている。転倒事故に備えては、センサーに頼らない見守りを模索しながら、声掛けの工夫で行動抑制を防ぎ、利用者の安全を図りたいと努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に各ユニット主任と話し合い虐待等の潜在する危険がある職員がいないか職員の心身共に管理が出来ているのか、未然に防げるよう、努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については1年以上研修を行っておりません。 また、やります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時の十分な説明は行っています。 今後、重説等改定予定なので、その際もしっかり納得いただけるよう説明します。 利用料金を払って下さらない御家族への対応に困っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話対応時はなるべく御家族が意見を出しやすいよう何度も伺うよう努めています。	家族の物品持ち込み時やガラス戸越しの面会時、電話連絡時に意向・意見を聴いている。年4回の行事の写真(なごみ通信)と、請求書に同封の個人の様子を記した手紙は、暮らしの内容が分かると家族の好評を得ている。ITCによる情報発信・交換の要望には、環境整備上応えられないが、個人的には携帯メールを駆使している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の実情を周知するという事はとても重要な事だと思っています。 同時に現場職員からの話を精査し真実を確認する事も重要だと思えます。 一人一人の聞き取りに力を入れ正しい方向にシフトさせるよう努めています。 また何が難しいのかというのは、利用者様へのサービスの向上だと考えます。	全体会議(管理者・主任・ケアマネジャー)⇒フロア会議を月1回行い、フロア会議での課題を全体会議で協議、運営に反映する仕組みとなっている。日常での申し送り事項にも留意し、管理者の判断で採決実行を図り、サービス向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記に関して整備中段階です。当施設では毎年昇給があり、また行政による最低賃金引上げにも、素早く対応するように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修は行っていますが、外部研修はここ1年行っていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、主任以外はここ1年交流会の開催はしていません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や御家族様に寄り添い不安や要望を聞き出し易い関係性を構築し気持ちを尊重出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望、本人様の気持ち双方に耳を傾け、齟齬が生じる場合等にはより最適な提案や説明を行うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「新入居者様初期観察記録」を用い職員全体で把握、共有する事により観察、関わり等において本人様のニーズや気持ちを見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	TVの内容やスタッフの日々の出来事等を話す事で会話が広がり また人生の先輩として多くを学ばせて頂く事も出来る、そういった関係性を作り共に歩めるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、現在実施出来てませんが、季節イベント等で家族様と楽しむ時間の企画や、来所時には日頃の状態をお伝えし、家族様のご事情等も傾聴し、遠方等で来所の難しいご家族様には、定期的に手紙等でお伝えして、可能であれば電話でのやり取りもしてもらっています。家族様からの情報や面会が一番の支援になることもお伝えしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中で昔の友人や馴染みの場所を汲み取る努力を行っています。 状況により御家族に協力をして頂いています。	家族・親族以外の面会は、コロナ禍での規制から問い合わせも無くなっている。家族からの孫娘の成人式をの晴れ姿や、往年の写真などでの会話が笑顔になっている。長く続いた理美容師の訪問が、法人の意向で変更となり馴染みが途絶えている。中には通院途中で以前の居宅周辺を廻り、懐かしい風景を見る機会をくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症という症状にて、当施設に入所されており、症状の進行と共に、排他的になられたり、協調性がなくなられたりや色々な症状が見られ、職員はその方の症状を考慮し、会話の糸口を見つけたり、コミュニケーションの橋渡しをしたりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方の家族様にも頃合いを見て、電話させていただき、家族様のお話を聞き、少しでも喪失感を払しょくして頂くよう努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活スタイルを可能な限り、本人様や家族様から情報をもとに、施設内での生活に取り入れるように努めております。そのためにはご本人とのコミュニケーションや家族様、関わりあったケアマネージャー様と情報共有を行い、ご本人様の思いや意向を尊重しつつ、日々の新しい発見や趣向の変化に合わせて対応を検討しております。今後の状態変化に際し本人様の意向が困難になった場合は極力沿うように検討を努めます。	入居時の行動記録の変化を当然として、日々の接遇時での気づきで、新しい発見を共有し、意向に沿った対応に努めている。出来ることを見失わず、カンファレンスなどで介護計画へ活かしている。コミュニケーション力、観察力の養成に努め、利用者個々人の価値ある人生、望ましい暮らしの支援を目指すとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの情報や家族様からのお話しも契約時に関わらず、聞き取っている。在宅時にケアマネージャーがついていた方には電話や直接ご挨拶に伺い、サービスの利用状況や、生活スタイル、生活歴等を聞き取っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前までできていたことが多少の困難さが出てきた時は、ご本人の状態の変化を申し送りで周知し、介護面だけでなく、訪問看護師、常駐看護師の意見も聞き、介護士の判断だけに留まらぬように、医療面からの意見も聞き、現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回のモニタリングと、認知テストを行うことで、症状の変化を把握しております。介護職員、看護師からの聞き取りを行い、ご本人の現状の気持ち等を直接伺いながら計画書の作成、モニタリング・認知テストの結果を鑑み、現状の変化を家族様や関係機関に相談を行い、現状に適した介護計画を努めています。介護計画に沿った介護を行い、変化を現場間で共有し、随時医療や家族様等に報告を行い、チームワークを築いていけるように努めています。	職員によるカンファレンス(月1)、ケアマネジャーのモニタリング(3ヶ月毎)とアセスメント(6ヶ月毎)、看護師による認知症テスト(3ヶ月毎)、日々の記録を参考に、半年ごとのサービス担当者会議(医師・看護師参加あり)で計画し、その見直しを行っている。家族へは電話や手紙で説明し封書にて同意・確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、夜勤者・日勤者共に記載したものをチェックし、記録と申し送りを合わせて、終日の情報を共有するように努めています。状態の変化が著しいときは職員、看護師、ケアマネジャー間で話し合い計画書の変更を努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい、たまには違った環境で食事したい、家族と共に食事したい等のニーズには、イベントとして企画したり、御家族へ電話をし、意向をかなえて頂けるような体制作りを努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの協力はもとより、運営推進会議でお知り合いになった町内会の方々より、情報を頂くことができます。コロナ渦収束の際は地域ぐるみで行うイベントにも積極的に参加を考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所時に、提携医療機関の説明を行っています。提携提携医療機関退院後の方の入所が多く、主治医の継続を望まれております。また他の医療機関受診されていた方も、ご本人、家族様へ説明、ご納得いただいたからの契約をしております。入所後は主治医の往診時に詳細情報や当施設での状態の報告を行い、医療との情報の差異がないように努めております。今後の状態の変化を往診・訪問看護の際に報告を行い、より適切な医療を受けれるよう支援に努め、急な変化の際は提携医療機関への連絡を行います。	全員が2箇所の提携医療機関(東和病院15名・なごみ診療所3名)の内科を主治医とし月3回の訪問診療を受けている。前年度まで続いた精神科の訪問診療は中止している。歯科医は週1回訪問し希望者に治療や口腔ケアを行っている。常駐の看護師に加え訪問看護師(2提携医療機関)が週3回訪れ健康管理を行い、主治医との24時間オンコール体制も整備されて安心である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の在宅看護師と介護士間での情報の共有に努めています。また常駐看護師とも、連携し医療面の滞りがないように体制を保ちつつ、記録も残しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には薬情をはじめ、日々の状態等の情報を改めて提出しております。また病院側のMSWIにも連絡行い、退院時期の調整や、家族様へ状態の詳細を聞き取るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、看取りについては説明し、署名捺印は頂いております。また入居者様に特段の変化がない場合も、考えにお変わりがないかを定期的におたづねし、再度作成したりしております。看取りの変更時は随時フロア内に周知を行い、ターミナルケアに入った方の情報は各フロアに伝達、全体会議の場にて詳細情報を落とし込み施設全体で共有を図っています。今後看取りになられる方に関しては予兆を見逃さないように努め、医療と連携し迅速に対応していきます。	今年度は1名の看取り経験がある。入居時に「重度化した場合における対応・看取り介護に係わる指針」での同意を得ているが、家族の意向は面会のたびに確認している。状態変化時に主治医から家族へ説明し、最終意思を確認する。家族からは「コロナ禍であっても最期を看取る事ができた」と感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアル作成をしており、また日頃より、看護師の処置等を介護士も付き添い指導を受けています。また実務者研修の奨励をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。また町内会の会合でも防災について、避難所等の情報を頂いており、近隣の老健(系列外)からも、備蓄米等の援助の話、系列グループホームとも施設が激しい被害状況にあったときの避難についても話し合いしています。消防訓練に際して火災以外にも震災や水害に対する対策や避難方法を相談により聞き取った事を各ユニットに周知を行なっています。今後、災害の際に必要なであろう備蓄や常備品の見直しを行なうようにします。	年2回の避難訓練(火災・昼・夜想定)は消防署立ち会いのもとに実施している。避難経路などの指導を受け一部の利用者也参加した。BCPは管理者が作成しているが、備蓄品が3日分しかないことや地域住民の協力体制が難しい点など、(マンション上層階はワンルームのため協力要請は困難)課題が残っている。今年度から近隣のグループホームと交流をはじめ非常時の協力体制を検討し合っている。	BCP(事業継続計画)が策定出来ているが、研修や訓練実施にはいたっておらず、職員に浸透を図るため、研修と訓練(シュミレーション)実施をスケジュール化するなどの取り組みを期待する。特に新任の夜勤者に対し早急に避難訓練の研修実施を望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、尊厳を尊重して支援するようにしています。対応に苦慮するときには看護師も交えてカンファレンスを行っています。個々の人格により衝突される事もあります。間に職員が入り、差別無く支援を行なっております。対応困難な方に対しては医療にも相談を行い、連携を持って対応に努めています。	定期的に「接遇」「プライバシー」などの研修を行い日々の支援に活かしている。特に入浴・排泄時の羞恥心への配慮とプライバシー確保に留意している。原則丁寧語を使い苗字で呼ぶが了解を得て下の名前で呼ぶ事もある。職員対応が不適切な場合は、時と場所に配慮しながら管理者が注意している。個人情報ファイルは鍵つきロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にコミュニケーションを取り、希望等を汲み取っています。自己表出が苦手な方においては非言語的表出を注意深く見守るようにしています。そしてご本人の思いを汲み取ることが出来たら、提案し自己決定できるように、働きかけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間等は声かけはするも、利用者様の体調や気分に応じて時間を変更して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様や家族様の意向を伺い、定期的に訪問理容を受けて頂いております。また毎朝の整容も、季節に合った清潔な衣類を共に選ぶように心がけ、また不足してきたものに関しては家族様へ連絡し買い足しの許可を得たり、持って来ていただいたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で盛り付けを手伝ってもらったり、洗いや食器拭き等を、利用者様の意向と体調を見て、会話を楽しみながら手伝って頂いてます。食事レクでは製作を手伝って頂き、楽しんで頂けるように取り組んでいます。今後も、手伝うことにより職員や他の入居者様との会話などを楽しんでいただけるように工夫を行います。	配食業者から朝・昼・夕の食材が届きキッチンで職員が調理し白飯は炊いている。出来たての食事を職員と同席し食べている。洗いや拭きなどに参加する利用者もいる。1名が居室で食事介助を受けている。誕生日会でみんなで市販のスポンジ台をデコレーションしたり、食事レクとしてお好み焼きやたこ焼きなどのおやつ作りも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材やメニューを食材業者に委託し栄養バランスの良い食事の提供を行い、罹患されている病気や、訪問診療での医師の指示、毎日の看護師とのやり取りにて、個々の水分量、食事量の指示は周知徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を徹底し、自己で行われる方々には、声掛けを行っています。また訪問歯科による衛生管理も実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導、訴えあるときにはトイレ誘導を行い、尿意、便意の保持に努めています。また下剤服用の際には定時以外でも、本人様の表情、様子を伺いトイレの誘導をしています。可能なかぎりのトイレへの付き添いを行い、失禁等に対し迅速に対応を行い、排泄の確認をしています。今後の状態変化による排泄の変化を留意しつつ、医療と連携行い下剤コントロールを努めます。	布パン2名オムツ3名その他はリハパンツとパットを併用している。いずれもトイレでの排泄維持を目標とする。オムツで入居の利用者が3ヶ月位で一時布パンツ(現在はリハパン)まで改善した例があり、職員はトイレ誘導など細やかな支援の手応えを感じている。夜間巡視は一時間毎(記録は2時間毎)でトイレ誘導やパット交換・見守りに回っている。ポータブルトイレ利用者は1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食事やおやつ時の他に補水時間を設け水分の促しを徹底しております。また食材を業者に委託しており、栄養バランスの偏り無くし、可能な範囲で体操を行い適度に体を動かすことを行いつつ、排泄を記録しサイクルを図るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様個々の体調や希望により、時間にゆとりをもって行っています。また毎回お湯の交換、浴槽や浴室内を清掃し、清潔な状態で迎えするようにしています。体力的・身体的に入浴の難しい方にはシャワー浴や清拭を行い少しでも入浴を楽しんで頂ける様に努めています。	週2回の入浴を基本としている。浴室の浴槽は2方向介助対応でスペースがあり安全である。浴槽を跨げない利用者には2人介助をしている。医師の指示により湯船に浸かるのを禁じられている利用者もいるがシャワー浴で対応している。職員との1対1の会話を楽しみに行っている利用者が多く、季節の湯(柚子湯・菖蒲湯)も楽しんで貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や足の浮腫等も考慮し、日中の臥床や体操をして頂く時間を設けております。夜勤帯は、光の刺激を少なくし、排泄で起きて来られた利用者様の再入眠の妨げにならないようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬変更等の際には医師や看護師の指示指導をフロアへ伝達し服薬支援を行っています。状態変化の確認に努め、医師や看護師へ変化を報告・連絡しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の趣味、希望、意向等をアセスメント時に聞き取り。職員間にケアマネージャーが落とし込んでいる。また日々の生活の中の会話で表出された意向は職員間で共有し、楽しんで頂けるようにフロア会議等で話し合いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、制限・条件を設けていますが、家族様等の要望の際は外泊をして頂いてます。なるべく体力の低下を抑えるために廊下を歩いて頂くなどの工夫をし散歩に行ける日に備えております。コロナ禍が収束の際は外出を楽しんで頂きたいです。	法人の方針によりやむを得ず外出は禁じられたままである。春には窓越し(エレベーター前や大川を臨む一部の居室)の花見となった。外泊は本部の許可を得た場合に限られ原則禁止している。建物の構造上外気浴も難しいため、筋力低下防止として廊下での歩行訓練を続けている。利用者をはじめ職員にも大きなストレスが溜まっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の契約時にお金の管理については、家族様とお話ししています。そして少額のお金なら本人様が管理されたり、管理の難しい場合は説明したうえで事務所で保管しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望有るときは家族様へ連絡させてもらい、また以前からの友人等、(家族様からの前情報で面会可能な方)の来所にも応じさせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は日勤・夜勤とも大切な業務として行っている。フロア内では季節ごと飾り付け等で季節感を味わってもらっている。散歩際に持ち帰られた物などを、居室で飾る援助も行っています。日中に季節の音楽を流す時間を取り入れたり工夫を行なっています。今後も共に過ごされる空間として居心地良い場所の提供に努め、利用者様により良い空間としていきたいです。	広いリビングにはソファ2脚が壁際におかれている。壁面には写真・習字の作品・季節感を味わえる雪だるまの貼り絵などを飾っている。華やかな装飾は控えシンプルで落ち着いた雰囲気である。対面キッチンであり家庭的な調理時の匂いや音を感じる事ができる。利用者は読書や交換日記・動画(演歌やニュース)を見たりと思いおもいに過ごしている。利用者も職員とともに清掃に参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、個々の利用者様が気持ちよく過ごして頂ける様に、気の合う利用者様同士は近位にしたり、各々をその時々によって、変化に対応しています。そしてその情報を職員間で伝達、周知しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様、ご本人の希望によって、思入れのある衣類や家具等を可能な範囲でお持ち込み頂き、安心して過ごしていただける様にさせて頂いています。	居室には予め防災カーテン・ベッド・エアコン・クローゼット・洗面所が設置されている。利用者は馴染みの家具や仏壇・テレビ・ラジオを持ち込んでいる。半数の部屋は公園側に面し緑がよく見えるため、桜の季節には許可を得て窓越しに花見に入らせて貰う楽しみもある。職員が掃除をする際は利用者によっては一緒に行い、清潔で居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	尿意の維持として夜間帯にオムツ対応ではなく、ポータブルトイレを設置し、出来る限り排泄の自立を支援しています。また転倒防止として家族様の協力のもとセンサーマット等の工夫をし、安全に生活してもらえるように支援しています。		